

2012.4.1 第26号

発行所 群馬県立高崎女子高等学校
同窓会
高崎市稲荷町20 電話(027) 362-2585
発行責任者 吉村 晴子
印刷所 ほその印刷

わたしたちの同窓生

《母校創立113周年》

会員数 32,165名
平成24年4月1日 現在



同窓会報

椎の樹

同窓生の絆を広げて



同窓会長 吉村 晴子

同窓会の皆様お健やかに... 昨年(2011)の東日本大震災は未だ傷跡は癒えず東北の卒業生の様子ご案じております。

平穏な日々があったが... 身にしむこの頃です。お互い寄り添う思いやり、支え合うぬくもりを同窓の絆の中にも見出してゆきたいと思いま

校舎から移転の後も大切に保管されてきました。同窓会であらためて内部の整理清掃を行い、群馬県先駆けての女子教育の精神を、今に伝えるよう協力いたしました。

羽ばたく高女生

校長 茂木 道弘



同窓会の皆様におかれましては、ご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に温かいご支援とご協力をいただきお礼申し上げます。

また、平成23年10月に愛媛県で開催された第75回全国学校歯科保健研究大会において、全日本学校歯科保健優良校として、文部科学大臣賞を受けました。

入会のことば
上毛三山も瑞々しく、生命の躍動感溢れる春を迎えんと



同窓会入会式

研究の蓄積を生かし、校訓「向学報智」「清楚高品位」「明朗闊達」のもと、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成に努めて参ります。

同窓会総会

平成23年5月2日 母校椎樹館



5月2日、多くの会員の参加と学校長をはじめとする御来賓の方々の御列席を頂き、母校椎樹館にて平成23年度同窓会総会が開催されました。



への1分間の黙祷が行われ、続いて吉村会長の挨拶では、義援金への呼び掛けと、震災を乗り越え、復興へ向けて力強く進んでいきたいと思います。



最後の校歌合唱では、講演会講師 原澤弘子先生も一緒に下さり、あおり、あおりをキラ

するこの佳き日に、私たちは三年間共に過ごしたこの学び舎を巣立つことができました。

今日までの喜びや悲しみを分ち合ってきた仲間達や先生方、そして温かく見守ってくださった同窓生の皆様方には感謝の気持ちで一杯です。

Table with 4 columns: Date, Time, Event/Venue, Contact Info. Rows include travel application period, general meeting, 110th anniversary trip, 61st Tokyo Alumni Meeting, New Year Meeting, and Association Meeting.

平成24年度同窓会総会ご案内
開催日 5月1日(火)
受付 13時30分より
開会 14時00分
場所 母校椎樹館
1. 総会
2. 松樹館の見学予定

石橋物語
椎樹館前の植え込みに新たに石が置かれたことをご存知ですか。この石は、明治42年、末広校舎正門前の石橋架橋欄干として使用されたものです。

※ <25年度の当番期は84期(高37回)です>

2011年度 総会記念講演

講師 原澤弘子先生

「詩人茨木のり子の言葉」を聴いて

82期(高35)

岩塚久美子

「私は昭和58年に教員になりましたが、行き詰まった時、茨木のり子の詩によって救われました」とお話しくださった原澤先生の言葉に、私は一人の人間の人生を支え、導く力を持った言葉を綴る「茨木のり子」という女性に強い関心を持ち、先生のお話に引き込まれてい

きました。先生の後ろには、土屋文明記念館での「茨木のり子展」わたしが一番きれいだった時」のポスターが掲げられており、先生がお話された「凛とした生き方」が写真からも伝わってくるようでした。「現代詩の長女」と言われ



講演者 原澤弘子先生
詩人 茨木のり子の言葉

た茨木のり子は、昭和18年、愛知県の高専女学校から東京の帝国女子薬学専門学校に進学、戦争一色に染められた軍僕として学生生活を過ごし、20歳で終戦を迎えます。その体験が青春に対する悔みや悔いとなって、詩の根元に横たわっていると先生は解説してくださいました。多くの国語の教科書にも掲載されている「わたしが一番きれいだった

講師紹介
筑波大学第二学群比較文化学類(比較文学専攻)卒業、佐波農業高校・伊勢崎女子高校・茨川高校・高崎女子高校を経て、土屋文明記念文学館に学芸員として勤務。平成23年藤岡北高校に異動。

時」という詩には、そういった想いがくっきりとした鮮やかな力強い言葉で綴られています。そしてもう一つ、私が茨木のり子という女性に、強く涼とした生き方を感じたのは、中国や韓国への想いとその表現です。先生がご用意くださった「りゅうりえんれんの物語」という詩は、中国人「劉連仁」が日本軍に捕まって北海道で強制的に働かされた事実が、鋭い視点で描かれています。この詩はかつて、高専の放送部の生徒達から「放送劇をやりたい」という声があがり、放送劇が実現したとの事で、これもまた、茨木のり子の、我が国が戦時中に行ってきた行為への懺悔が、生徒達の共感を博したものだと思

感動しました。また、凛とした生き方として、「もうちょっと弱いところもあった」として、「Yの箱」の中に収められた亡夫への恋歌をご紹介下さいました。「歳月」という詩には、溢れるような恋心が歌われています。「茨木のり子」という女性を深く知る原澤先生だからこそ、この人間のお話は、一層魅力的な女性として私の心に深く刻み込まれました。先生のお話を伺って、言葉で社会を斬り、言葉で多くの人を鼓舞し、言葉で多くの人の心を癒した茨木のり子をごんごにも魅力的に伝えて下さった原澤先生の言葉もまた心を揺さぶる力を持っていると、深く感動いたしました。

松樹館だより

図書部 神保昇一



松樹館は、昭和64年、高専創立90周年記念行事の一環として、同窓会のご尽力により建てられました。高床式の鉄骨作り二階建て、中は3つの展示室と収蔵庫の4部屋からなり、明治32年に開校して以

来の本校ゆかりの資料が展示・保存されています。3つの展示室の構成は以下の通り。
●展示室Ⅰ「学校の歴史」 入館して左側の部屋です。開校してから現在に至るまでの学校の沿革が、「春霧館」、「末広町校舎」、「稲荷町校舎」の3つのコーナーを通してご覧になっていただけます。
●展示室Ⅱ「明治・大正資料」 階段を上がり右側の部屋です。県下一の伝統校である本校以上に、特に明治の資料を有している所は県内にはありません。そのため、ここは本県教育資料の「宝」が集められた部屋です。展示資料は写真パネルや卒業生の作品、教

材用具等です。群馬の教育の先駆けを担い、情熱を持って時代を駆け抜けた諸先輩の姿を想像していただければと思います。
●展示室Ⅲ「数々の足跡」 2階左側の部屋です。入口には第4代校長「佐藤徳三郎先生 肖像」があります。この部屋は教師や同窓会、生徒会活動関係等の資料を展示しています。本校に勤務していた先生方が残してゆかれた画や書、生徒会誌、全国8位以内の各部活動の賞状、楯やトロフィー、さらには和綴じの稀観本や市の重要文化財に指定されている鑑など様々な分野からの「足跡」が展示されています。最後に収蔵庫。1階右側の部屋です。ここには「高女

九十年史」の原稿や、卒業生からの寄贈品、教育関係資料等が収められています。実は、昨年の6月と9月に同窓会の方々が清掃、整頓をして下さり、乱雑だったものがきちんと整理されました。特に「年史」の原稿やアルバムは時代ごとに分類されてとても見やすいものとなり、その中で新たに展示することとなった資料も発見されました。さて、このように高女の歴史が凝縮された松樹館ですが、入学生オリエンテーション等で利用することで、卒業までに全員が一度は足を運べるものに出ればと思っております。また博物館施設は、新資料と共に成長していくものですので、資料のご寄贈もお待ちしております。

椎の小径

青い月

48期(女8) 海野ちづ子

秋の夜に一人聴くノクターン
ビロードのカーテンがすかに揺れ
ワインの香り
ひろがれば 星はきらめき
私の胸は静寂にどけこみ 心澄みてやわらかく
遠く岩うつ波のモノトーン なぜ過ぎし日の
記憶をよび戻すのか 多感な
青春の夢 いま夜空に美しく舞い
青い月ひそかに西に傾く

万年筆

83期(高36) 五十嵐貴子

最近直す人なんかいないと
損得抜きに目を細くして笑う一筆堂のなじみの店主
それでもあと一度だけと預けたのは
もう二十五年も使い込んだ万年筆
「一本くらいはちゃんとしたものを持つんだ」と
就職祝いに買ってよこした父の声が
今も耳元で鮮やかによみがえる
初めて持った万年筆は宝石のように輝き
不透明で不確かで頼りない未来を予言していた
あれから四半世紀
つやも光も失せてすり減ったキャップの金具が
時間色の深みと記憶色の懐みを抱いている
綴った思いの分だけすり減っていく魂
誰かの心から心へと伝えられていく文字の糸
真新しいペン先だけが妙にまぶしくて
思わず目を閉じて確かめてみる
その透明な輝きの銀のごとくまだ純であるかと
その鋭い切っ先のごとくまだ進めるかと
目を閉けば
新しいなめらかな黒が迷いなく道を示していた

松樹館整備について

61期(高14) 海老原洋子
松樹館は、卒業生の貴重な作品、記録を収納する事を目的とした資料館です。しかし長い年月を経て未整理の収蔵資料も増加したため、清掃整備を23年度同窓会事業と定め、常任幹事と当番期で実施しました。

初回は、母校で長年教鞭をとられ、その方面に造詣の深い山口聰、吉永哲郎両先生にご指導をお願いしました。学校からも3名の先生にご参加いただき、松樹館の意義、有り方、利用方法等お話しいただきました。そして明治32年群馬県で初めて開校した女学校



として、「群馬県高等女学校」という名称を持つ13年間の記録こそ、格別に貴重であるとご指摘を受けました。先生方のお話を胸に、6月エプロン、マスク姿の20余名

椎樹祭に参加して

52期(高5) 山崎千代子
53期(高6) 新井 京子
第21回椎樹祭が6月11日、12日に開催され、OG展として参加併催いたしました。

華道・書道を椎樹館和室に展示いたしました。華道は42期、64期の9名で、格花三杯自由花六杯の編成でした。格花は日本古来の床の間に活ける懐かしい落ちついた風情で、孔雀檜葉が使われ緑美しく、自由花は色彩りも華やかに観る人も楽しく、明るく和やかになります。活けこみも始終和気藹藹としていました。

書道は44期、70期の21名が出品し小品として寸法制限させていただきました。また地元の方にお願ひする形となりました。現役の方が多くそれぞれ工夫されて、漢字・かな・詩文・前衛等幅広いジャンルの作品となり、墨色も黒・淡墨・色ものも多彩で圧巻でした。

隔年の椎樹祭参加ですから10年に一回位の割合で、洋画・日本画・工芸・写真・華道・書道の展示となっています。

が松樹館に集まり、1階資料室の清掃分類を行いました。9月には、前回分類した各資料を種類別、年代別に整理し、10月に、展示室3室の清掃整理をしました。女学校歴代生徒の作品を始め多数の資料の展示等は、母校の先生方のお力を拝借する事になりました。

4月には他に例のない貴重な資料が生まれます。今後は新入生の授業の一環として利用され、総会、椎樹祭には一般公開される予定です。どうぞ皆様お出かけ下さいませ。

コーラスへのお誘い

同窓会合唱団「コール椎樹」は毎月、第2日曜日/午前10時より母校椎樹館1階で練習しています。一緒に歌いませんか。どうぞお出かけください。
《連絡先》71期(高24) 須藤静子



短い日中で慌ただしいのですが、お忙しい中を同窓会長、副会長と一緒にお願いいたしました。本当にありがとうございます。お陰さまで一同記念撮影させていただきました。2日間在校生・父兄・卒業生・一般人も大勢入場いただきましたこと嬉しく感謝しております。当番期の方の設営・陳列・受付・撤去のご協力ありがとうございました。御礼申し上げます。

急のご案内でも反応は素早く、係としては大変ありがたいです。先輩方との交流は非常に有意義で大切な事だと思います。



東京都庭園美術館と豆腐懐石を堪能!
 83期(高36)山田文恵
 毎年恒例の高女同窓会親睦旅行に、今回初めて参加させていただきました。少し緊張してバスに乗りました。担当の方からの日程の説明が終わると、マイクを回しての自己紹介が始まりました。皆様毎年この旅行を楽しみにされている事がわかり、私もわくわくしてきました。お天気にもめぐまれ、順調に東京都庭園美術館に到着しました。11月から3年間のリニューアル工事に入る前の最後の展示会です。旧朝香宮邸である館内には、壁や窓、調度品、照明に至るまですべてが美術品であり、その空間に居ると雑多な日常から離れて、別世界にいるようでした。パリで開催されたアール・デコ博覧会を、ご覧になられた朝香宮ご夫妻が自邸の建設の際に、フランス人の芸術家にご依頼されたという装飾がとても素晴らしい

京浜同窓会

83期(高36)中島みゆき
 第60回高女京浜同窓会が、平成23年7月10日、東京・白の椿山荘タワー10階「フリージア」で開かれました。当日は吉村晴子会長はじめ、母校同窓会ご来賓の皆様、茂木道弘校長先生方にもご臨席いただき、夏の日差しに緑輝く庭園を眼下に、総勢10名の賑やかな宴となりました。

開会に際し、京浜同窓会の鈴木令子会長から、困難に負けず芸術性を磨いたピアノスト、フジ子ヘミングさんを例に、学び続けることの大切さをお話しいただきました。上品な和装姿の吉村会長からは、人と人との結びつきの大切

切さについてご挨拶を頂戴いたしました。茂木校長からは母校近況をお聞きし、勉学・クラブ活動における素晴らしい成果に目を凝らしました。第1回卒業生の近藤すみさんが、昭和31年、東京近郊に住む卒業生の為の同窓会東京支部を設立しました。今回は60回目の記念すべき会となりましたので、明治32年開校以来の写真をまとめたスライド「母校の歩み」を上映しました。三益松が刺しゅうされた袴姿の女生生や、なつかしい末広校舎の写真を見ながら、歴史ある母校に思いをはせました。引き続き松井慎二教頭に乾杯のご発声をお願いいただき、フランス料理を味わいながら、和やかに会が進みました。宴たけなわのころ、サクソ



フォン奏者の金井真理子(101期)さんと、金井美奈子(84期)さんのピアノ伴奏によるミニコンサートがありました。濃いブルーのドレス姿の金井真理子さんは、「愛の挨拶」「白

同窓会110周年 親睦旅行へのお誘い
 ~伊香保温泉と榛名湖畔~
 日程 平成24年6月24日(日)~25日(月)
 期行 6月24日(日) 高崎駅東口出発(14:00) → 伊香保温泉・福一 記念式典・祝宴(お楽しみ会)
 6月25日(月) 福一 → 榛名湖 → ハルナグラス → 時代屋 → 高崎駅東口到着(14:00)
 参加費 17,000円 (往復バス代は同窓会負担)
 定員 200名~300名
 申込方法 ①4月1日~5月1日の間に振り込み振込先 加入者名
 ②5月1日 総会当日現金を添えて申し込み 問合せ 山田 遠藤

かったです。夢のような2時間があっという間に過ぎて、次は一転して純和風の家庭での昼食です。2千坪の庭園に新潟県や秋田県から移築した伝統的な数寄屋造りの建築や工芸品を配したうかい亭は、厳選した材料でつくる豆腐懐石のレストランで、今回の旅行の楽しみの一つでした。目にも美しい懐石料理が次々にはこぼれて、会話も弾みました。普段はお会いできない先輩方とお話ししながら、美味しい料理をいただきました。お食事の後には紅葉の美しい日本庭園を散策し、すぐ隣にそびえる東京タワーをカメラに収めました。その後は東京駅周辺の再開発で話題となっている、丸の内ブリックスクエアへ向かいました。中には三菱一号美術館もあり、皆様それぞれに絵画鑑賞、ショッピング、またティータムを楽しみました。

24年度京浜同窓会のご案内
 平成24年7月1日(日) 12時より
 場所 目白 椿山荘 タワー10Fフリージア
 連絡先 84期(高37) 笹島ゆう子



皆で集まり、絵画論や各自の近況等話し乍ら、会食などして過ごします。5月頃になると、案内状製作の為、各自郵画を持ち寄り、パネルを作ります。案内状書き、展覧会開催で1年が終わります。忘年会、新年会、一泊旅行等楽しみながら作業を繰り返してゆきます。

鳥「ヴァカンス」などを演奏。のびやかな音色が涼と安らぎをもたらしました。最後の「浜辺の歌」は全員で唱和しました。

楽しい会は、鈴木会長指揮のもと、恒例の校歌合唱で締めくくりとなりました。見事な三部合唱に伝統ある母校を思い、来年の再会を誓いました。旧交を温める素晴らしい機会を頂きましたこと、幹事一同心より感謝申し上げます。

新年会
 82期(高35)安立師子
 去る2月5日、高崎ビューホテルあかぎの間で、高女同窓会新年会が開催されました。当番期は82期 末広町から稲荷町への移転、そして新校舎最初の卒業生です。

立巻の翌日ということもあり、暖かく天候にも恵まれました。会場には、受付開始1時間前くらいから多くの同窓生が集まり、あちらこちらに談笑の輪ができました。

ノボジュール展
 62期(高15)井上恭子
 先ずこの美術展は、62期9人のグループが、年1回開催するものです。OG全体の同窓会の当番幹事の折、ふと決まった話が実現し、20回を迎えた次第です。ノボジュールは仏語で、その意訳である「我々の素晴らしい日々」を共有した年月でありました。第1回は、当時の一番街画廊で、賑やかに華々しくデビューしました。5回目からユー・ホール様にお世話になり現在に到っています。次回21回目も11月開催予定で準備を始めたところです。2ヶ月に一度位

大震災後にJRCを中心として高女生が迅速に動き、数日のうちに日本赤十字を通して募金を送ったこと、また高女総体で山岳部が全国優勝したこと等、現役高女生の頑張りが伝えられると、会場は大きな拍手に包まれました。

会も終盤にさしかかり、当番期引継ぎ等がありました。最後の岡谷さんのヴァイオリン演奏も加わった校歌合唱は、今までにない素晴らしいものとなりました。

祝宴が始まると、会場内はあちこちで談笑したり、写真を撮る姿が見受けられ、和やかな雰囲気になりました。

祝宴が始まると、会場内はあちこちで談笑したり、写真を撮る姿が見受けられ、和やかな雰囲気になりました。

ます。入脱会を認めずの会則の為か、一人も欠けず20年続けてこられました。これから皆様にも愛されたい団体でありたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

平成19年12月には京都での全国女子駅伝に初出場。28位と大健闘。OG会は大応援団を結成し、バスで京都に行きました。その際は、皆様方より多大な御寄付を頂き、感謝しております。

先生方お一人おひとりにご挨拶いただき、懐かしい日々

先生方お一人おひとりにご挨拶いただき、懐かしい日々

しました。在校生から、お礼状と各選手の自己紹介や抱負が届き、OG会との絆を深めております。

期別同窓会
 83期(高36)藤原理央子
 平成23年8月13日、ホテルメトロポリタン高崎において、期別同窓会が開催されました。卒業以来初の同窓会でしたが、9名もの先生方にご出席いただき、同期生も87名参加の盛大な会となりました。学年全体で顔を合わせるの、なんと28年ぶりでしたが、皆さんに打ちとけて、あっという間に昔の顔に戻り、会場はなごやかで華やいだ雰囲気になりました。

母校の近況

●山岳部

山岳部は、県高校総体において、6年連続18度目の優勝を果たし、インターハイの切符を手に入れました。

今年のインターハイは、8月9日～13日、青森県の岩木山・北八甲田山系を会場に開催されました。この大会に向けて、昨年の出場経験のある3年生2名を中心に綿密な計画を立て、特にペーパーテストにも力を入れて練習を重ねました。

登山競技は、山域の情報を含めた登山知識・救急知識・気象知識のテスト及び天気図作成・予報に始まり、体力・歩行・設営・炊事・読図・装備・記録・マナーなど幅広い技術を丸3日間審査対象におかれるものです。変化する気象・地形に適切に対応しながら4人のメンバーで何事も解決していかねばなりません。途中のメンバーチェンジもない競技です。何度も下見に



入っている学校がある中、下見の出来ない高女は、地図を読み、地形を頭に入れることで対抗しました。

今年3年生は、初出場の2年生をよくりードし、まとめてきました。ペーパー試験もほとんどミスなし、他の項目も大きな取りこぼしもなく、期間を頑張りました。結果は、97.6点、全国1位となりました。東北勢が健闘中、見事な優勝です。賞状2枚(全国高体連・文部科学大臣)は事務室前、カップ2つ・盾2つ(NHK・毎日新聞社)は校長室に飾られています。来校の折には是非ご覧ください。

応援していただきました多くの方々には感謝申し上げます。また、お祝い品を寄贈していただきました有志の方々はこの場を借りて深く御礼申し上げます。今後もよい知らせが届けられますよう励んでいきたいと思っています。

●百人一首部

8月に福島県会津若松市で開催された全国総文祭に、群馬県チーム(8名)の選手として本校百人一首部より、3年佐藤史織さんと2年高橋菜里さんが参加しました。競技は5対5のトーナメント戦で、群馬県勢は順調に勝ち進み、決勝戦では強豪の東京都チームと互角に戦い、接戦の末2勝3敗で惜しくも破れ、準優勝となりました。試合後の講評でも、群馬県チームは競技での礼儀正しさを称えられ

小倉百人一首かるた部



ました。部長の高橋さんは、さらに力を伸ばしていけるよう部員全員で精進を続けていく、と決意を語りました。

●主な部活動実績 (平成24年3月19日現在)

《体育部》○県総体 女子総合優勝(11回目)
・全国大会 山岳部 全国総体 登山競技 団体女子優勝
水泳部 全国総体 800m自由形 個人5位入賞
新体操部 全国総体 出場
ソフトテニス部 全国総体 ダブルス出場

《学芸部》
・全国レベルでの受賞等
文芸部 全国総文祭 参加
全国高等学校文芸コンクール 文芸部誌部門 優良賞
音楽部 全国総文祭 参加
百人一首部 全国総文祭 群馬県チーム準優勝 2名出場
マンドリン部 全国高等学校ギター・マンドリンフェスティバル 優秀賞・大阪市長賞
放送部 NHK杯全国高校放送コンテスト 朗読・アナウンス部門、番組部門 出場
書道部 全国学生書道展 準優勝校、(書道芸術院理事長賞(個人)、毎日新聞社賞(個人))
その他 全日本学校歯科保健優良校表彰 優秀賞(文部科学大臣賞)

●平成23年度大学合格者数 現役+過年度卒(内) 24年3月29日現在

Table with columns for university type (National, Public, Private), university name, and number of graduates. Includes entries like 北海道大, 京大, 慶應義塾大, etc.

山麓の林の中に小さなログハウスを建て、犬と一緒に里山や田園を散歩し、自然からインスピレーションを得て作品を創る、理想的な生活。

瑞宝双光章 (調停委員功労)
59期(高12) 平子美恵子さん
34期 浦野あつ(杉並区)
私も大正8年生生まれの93歳。母校に永遠に幸あれ。

北から南から
26期 萩原はな(高崎市)
31期 久保田上枝(高崎市)
40期 上野延子(さいたま市)
44期 中村文子(高崎市)

42期 天田松枝(国立市)
45期 平井愛子(稲城市)
52期 大谷響子(鎌倉市)
54期 中村文子(高崎市)
58期 大坂部幸子(足立区)
61期 木村文代(登別市)
68期 長野美知(浜松市)

66期 小川暢子(宇都宮市)
68期 岩田あつ子(中野区)
71歳になりましたが元気です。昨年伊香保で古希記念同

77期(高30) 星野好美
平成23年8月9日(13日)に青森県で行われた全国高校総体(インターハイ)で山岳部は女子団体初優勝し、全国1位となりました。創部60周年の節目に達成した快挙に大変うれしく思います。

初優勝をお祝いしOG会を中心に、同窓会の方々、元山岳部顧問の先生方、PTA役員にも協力頂き、総勢91名でテントやサブザック、コップフェル等を贈りました。後輩たちが今後ますます安全で充実した部活動が行えることを心から願っています。

前年度最終編集会議は、3月半ば、東日本大震災から数日後でしたが、予定通り開かれました。毎日余震が続く中、いろいろな思いを抱きながら、真剣に主題に取り組んだことが、委員の皆様への感謝と共に思い出されます。復旧復興への支援が続く今、1年1ヶ月余をふり返りつつ、今年度26号をお届けします。

9月敬老の日を前に、100歳になられた顧問の戸塚塚様を正副会長でお訪ねしました。激動の1世紀を生きたお話を聞かされたとき、高女は素晴らしい、高女の卒業生であることと誇りに思うと何度もおっしゃいました。それは私達後輩への励みであり、素敵な言葉でのプレゼントとして受けとらせていただきました。

私と信州・安曇野
私は、昨年の春まで無所属の長野県議会議員だった。政治とは無縁、お金、地縁、血縁、同窓生と、選挙で必要なものは何一つ持たない私が、なぜ県議になったのか?

2000年1月、そんな生活を揺るがしかねない事実を知り、愕然とした。山麓田園地帯を貫く高速道路が、3年後に着工されることに決まったという。

知事不信任を出した県議会を傍聴、政治の住民不在を強く感じ、自分たちで送り出した知事を支えたいと、県議選に出て当選した。改革と守旧派勢力との攻防、田中さんが

38期 金井フミ(高崎市)
40期 上野延子(さいたま市)
44期 中村文子(高崎市)
52期 大谷響子(鎌倉市)
54期 中村文子(高崎市)
58期 大坂部幸子(足立区)
61期 木村文代(登別市)
68期 長野美知(浜松市)

66期 小川暢子(宇都宮市)
68期 岩田あつ子(中野区)
71歳になりましたが元気です。昨年伊香保で古希記念同

77期(高30) 星野好美
平成23年8月9日(13日)に青森県で行われた全国高校総体(インターハイ)で山岳部は女子団体初優勝し、全国1位となりました。創部60周年の節目に達成した快挙に大変うれしく思います。

初優勝をお祝いしOG会を中心に、同窓会の方々、元山岳部顧問の先生方、PTA役員にも協力頂き、総勢91名でテントやサブザック、コップフェル等を贈りました。後輩たちが今後ますます安全で充実した部活動が行えることを心から願っています。

前年度最終編集会議は、3月半ば、東日本大震災から数日後でしたが、予定通り開かれました。毎日余震が続く中、いろいろな思いを抱きながら、真剣に主題に取り組んだことが、委員の皆様への感謝と共に思い出されます。復旧復興への支援が続く今、1年1ヶ月余をふり返りつつ、今年度26号をお届けします。

9月敬老の日を前に、100歳になられた顧問の戸塚塚様を正副会長でお訪ねしました。激動の1世紀を生きたお話を聞かされたとき、高女は素晴らしい、高女の卒業生であることと誇りに思うと何度もおっしゃいました。それは私達後輩への励みであり、素敵な言葉でのプレゼントとして受けとらせていただきました。



2000年1月、そんな生活を揺るがしかねない事実を知り、愕然とした。山麓田園地帯を貫く高速道路が、3年後に着工されることに決まったという。

知事不信任を出した県議会を傍聴、政治の住民不在を強く感じ、自分たちで送り出した知事を支えたいと、県議選に出て当選した。改革と守旧派勢力との攻防、田中さんが

38期 金井フミ(高崎市)
40期 上野延子(さいたま市)
44期 中村文子(高崎市)
52期 大谷響子(鎌倉市)
54期 中村文子(高崎市)
58期 大坂部幸子(足立区)
61期 木村文代(登別市)
68期 長野美知(浜松市)

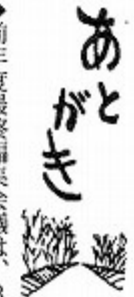
66期 小川暢子(宇都宮市)
68期 岩田あつ子(中野区)
71歳になりましたが元気です。昨年伊香保で古希記念同

77期(高30) 星野好美
平成23年8月9日(13日)に青森県で行われた全国高校総体(インターハイ)で山岳部は女子団体初優勝し、全国1位となりました。創部60周年の節目に達成した快挙に大変うれしく思います。

初優勝をお祝いしOG会を中心に、同窓会の方々、元山岳部顧問の先生方、PTA役員にも協力頂き、総勢91名でテントやサブザック、コップフェル等を贈りました。後輩たちが今後ますます安全で充実した部活動が行えることを心から願っています。

前年度最終編集会議は、3月半ば、東日本大震災から数日後でしたが、予定通り開かれました。毎日余震が続く中、いろいろな思いを抱きながら、真剣に主題に取り組んだことが、委員の皆様への感謝と共に思い出されます。復旧復興への支援が続く今、1年1ヶ月余をふり返りつつ、今年度26号をお届けします。

9月敬老の日を前に、100歳になられた顧問の戸塚塚様を正副会長でお訪ねしました。激動の1世紀を生きたお話を聞かされたとき、高女は素晴らしい、高女の卒業生であることと誇りに思うと何度もおっしゃいました。それは私達後輩への励みであり、素敵な言葉でのプレゼントとして受けとらせていただきました。



編集委員会
52期 吉村晴子
56期 吉野烈子
61期 海老原洋子
67期 大川悦子
70期 岡田俊子
67期 齋藤信子
73期 藤田和子
72期 林いずみ
75期 広瀬節子
74期 冬木嘉子
80期 北村久美子
82期 大野厚美
83期 中野路子
83期 根岸真美
事務局 79期 瀧川江里子
91期 齋藤 春果